

特集

「出血量ゼロ」をめざした 消化管癌の内視鏡下手術

内視鏡下手術は、新しい器械の導入をはじめ技術的な進歩を遂げており、より広く行われるようになってきた。内視鏡下手術では、拡大視効果によって開腹手術よりも微細な観察が可能となり、神経・血管などの同定にも役立っている。

しかし、このような利点は、術野を出血から回避することによって可能となるものである。たとえば直腸癌の手術に際しては、骨盤腔内の剥離は出血を回避した“白い視野を保つ”ことにより、剥離層・神経などの視認が可能となる。つまり、いかに出血を回避して手術操作を進めるかが内視鏡下手術のキーポイントといえる。

そこで本特集では、「内視鏡下手術を行う際に、いかに出血を回避するか」にポイントを絞り、各臓器の手術における具体的な出血回避の工夫に焦点を当てて執筆いただいた。